



迎春

子どもたちに、豊かな自然と暮らしを！輝かしい未来を！と今年も頑張ります

日本共産党倉敷市議団 小山ひろみちニュース

倉敷市田ノ上794
Tel ; 421-1032
Fax ; 421-1024
Mail;perosan@mx1.kct.ne.jp

古市市長の市政運営を問う

12月議会

12月議会では、市長選を前に、活発な政策論争が期待されてきました。小山博通議員は、古市市長の市政運営の問題点を、4点にわたって指摘しましたが、市民の判断を待

つ、として、自ら反省することをしませんでした。また、高齢者の反対を無視して強行された後期高齢者医療制度の4月実施中止を強く求めるとともに改善策を質しました。

低い市民評価に反省は？

古市市長は「エコフレンド（公約）の達成度は100点満点で79.7点と発表しましたが、昨年8月の市民検証大会では68.9点でした。市民アンケートでの1年間、倉敷市は市民に目を向けた行政を行っていると思えますか」の問いに、古市市政がスタートした04年度20.3%、05年24.5%、06年20.6%と2割の市民にしか評価されていません。

小山議員は「自己評価に比べて低い市民評価についてどう考えているのか」と質しました。

古市市長は「点数の違いは評価時期と手法の違い」「自己評価が高いか低いかは市民の判断に委ねたい」として反省はありません。

政策審議監制度を止め トップダウンを改めよ



公募による民間登用で市長直属の政策審議監を置き、市長の「エコフレンド」検証提言の諮問機関「ひと輝くまち、倉敷」推進会議を所管させ、市長の特命事項の調査研究を行わせています。政策審議監はこの3月末で3年の期限が切れます。

小山議員は「トップダウンの行政運営を改め、議会軽視につながる政策審議監制度をやめよ」と要求しました。

古市市長は「政策審議監は行政の意思決定のスピードを速め、私が主導して思い切った改革を実行するためのスタッフ。今後とも活用していきたい」と答弁しながら任期延長は検討中」としました。

組織改革 市長選後に先送り 無責任さを露呈

12月議会には毎年組織改革案が示されてきましたが、今回は市長選後にするとしていました。市長の都合で年度途中に組織を変えるのは問題だと指摘すると、古市市長は現在成果手法にもとづく、新たな行政経営システム構築を進めているが、それに整合をとる形で行政組織のあり方を検討している。市の行政組織は市長の市政運営に関する考え方が反映されたものとなるべきものと答弁しました。

再質問で小山議員は組織改革は市長の考えで行えばよいことだが、その前に議

会や行政内部の意見をよく聞いて政策を出すべきで、トップダウンはやめてもらいたいと要求しました。

古市市長は「任期が満了するこの時期だから私が判断すべきでない、後は市民の判断を待つ」と考え、今回は組織改革を提案していないと逃げの答弁を行い無責任さを露呈しました。

市場化テストの中止を

古市市長は、全国で初めて市場化テスト（官民競争入札制度）を導入し「官から民へのトップランナーを自負しています。しかし、担当部局の意見を無視し、外部評価によって一気にやるうとして、議会などから厳しい批判を受け、市場化テスト対象事業は最終的に1つだけになりました。それが公用車の維持管理業務で、結果は民間3社より、3000万円安く倉敷市が落札しました。

小山議員は「公用車の夕の無い管理は当然であり、官民競争にかけなければムダが無くならない」と言うのは公務労働の自己否定につながる。何でも民間に渡そうとする市場化テストは中止すべき」と迫りました。

古市市長は「日常の業務を改めて見直し工夫を凝らすことが出来た」と言う意味で高く評価している」と答弁し、市場化テストに固執しています。



天満屋出店で駅前に活気が戻ることが期待されていますが、地下道のバリアフリー化、バス、タクシー、送迎用停車・駐車場の配置に改善が迫られています。

集まりやすい、便利な倉敷駅に

バス、タクシー乗り場 送迎用停車・駐車場

倉敷駅前には、30年近く前に駅前再開発等で3つのビルをつくり、地上、2階デッキ、地下道の3層の連絡通路で結んであります。しかし、バリアフリーや不便な点など改善が求められています。

2階改札口から自由通路の入口で南へ出た時、タクシー乗り場降りるエレベーターがありません。駅ビル4階の店舗東端にエレベーターがありますが分りにくい。ホテル倉敷への西エレベーターは2階に通じていません。東ビルが閉まっていると、西ビルのエレベーターまで大回りしなければなりません。

雨天時には送迎の自家用車やタクシー

駅前広場見直しを

で混雑し渋滞が起きています。駅前広場東側に送迎用停車 駐車場があり、15分間無料ですが、不便なので活用されていません。

福山市では、福山駅正面地下に送迎用停車 駐車場をつくらせ、バス乗り場を駅近くに集約し、ターミナル機能強化を図っています。

小山議員は、「こうした他都市の例を示して駅前広場のバス、タクシー、自家用車の配置換えを検討すべき」と質しました。

湯川正司建設局参与は「駅前広場は鉄道高架に合わせ抜本的改良を行うことになるが、現状で何が出来るか検討する」と答弁しました。

バス、鉄道などの充実を

水島からのバスが減便となり、倉敷でシッピングを楽しみたいと思ってもバスが無い。また、真備町から井原線で倉敷駅往復するとバスよりも運賃が高く、清音駅での接続が不便だ、など市民から声が寄せられています。

小山議員は「集まりやすい倉敷駅を目指してバス、鉄道など公共交通の充実が求められている」と指摘しました。

湯川参与は「市内のバス利用者は25年前に比べ5分の1に減少。平成14年道路運送法改正でバス路線の撤退 参入が規制緩和され、路線廃止が徐々に進行している。現在倉敷市公共交通体系調査を実施しているが、関係者が連携しバスの利用促進を図り、井原線についても利用促進に努める」と答弁しました。

実態調査
もとに

中小企業対策はきめ細かく

日本共産党が要求して、中小企業振興条例が02年に制定され、中小企業診断士配置は07年4月に実現しました。

小山議員は、山陽新聞記事「平均的な日本の中小企業は従業員数6人、売上高1億2500万円、資本金1千万円で、当期利益は40万円、ほとんど儲かっていない。1997年から03年の売上高の変化を見ても、中小企業全体で20%も減る深刻な状態。だが比較的規模が大きい中小企業ほど影響は少なく、中には大企業以上に儲けているところもある。中小企業内の規模格差をふまえた

きめ細かい政策が求められる」との指摘を紹介して、実態調査にもとづくきめ細かい中小企業対策を求めました。

三宅忠良経済局長は「07年10月から県内他市に先駆けて、小口零細資金を創設したが、今後とも中小零細企業の実態把握に努め、きめ細かい支援に努めていく」と答弁しました。小口零細資金は6月議会で田儀議員の質問により実現したとの



大型店出店に卸売市場・小売業の意見を

小山議員は「大型店の郊外などへの立地が規制されるようになったが、大型店出店に際して、倉敷市として、地元卸売市場及び小売業との調和を図るよう働きかけるべきだ。また、卸売市場の活性化策をどう検討したのか」と質しました。

三宅局長は「大型店出店に際して地元小売業等は、大型店が開業する説明会や、届出内容を県が公告したときに意見を述べる事が出来る。本市としても出店申請相談時をとらえて、地元商店街との協議、催し物などへの連携 協力を求めている」。

卸売市場関係者へのアンケートで学校給食への地元産品納入を今後の取り組みの一番に挙げていることをふまえ、教育委員会に要請し、納入量及び品目数がわずかながら増加したと報告を受けている。今後とも学校給食

4人に1人が非正規 市が正規雇用化へ要望

小山議員は「昨年度の雇用実態調査で従業員の25.2%の非正規社員が働いていた。正規社員化を要望するよう求めたが現在どうなっているか」と質しました。

三宅局長は「毎年事業主に対し正規雇用拡大を申し入れているが、今年度は新たに5経済団体に向いて正規社員採用枠拡大を要請した。今年度中に、正規、非正規社員のアンケート調査を行い実態把握に努める」と答弁しました。